

## 第3章 食肉販売店の仕入動向

### 要 約

食肉仕入量（推計）は、牛肉が1店当り978kg、豚肉が1,793kg、鶏肉が1,181kgである。

食肉の仕入構成は、豚肉が56.1%、牛肉が30.4%、鶏肉が13.5%である。業態別では、「百貨店」、「食肉専門店」、「農協・生協ストア」が牛肉の仕入比率が高い。「総合スーパー」、「食品スーパー」は豚肉仕入が半分以上を占めている。

牛肉の仕入構成をみると、「和牛肉」と「国産交雑種」の仕入が拡大し、「国産乳用種」と「豪州産牛肉」が減少している。「米国産牛肉」は昨年の輸入再開以来、「食品スーパー」を中心に輸入・販売されている。仕入形態は「和牛肉」が「枝肉」「部分肉パック」、「国産乳用種」、「国産交雑種」が「部分肉パック」中心、「豪州産牛肉」はほとんど「部分肉パック」仕入である。

豚肉仕入構成は、「国産豚」が90%以上。「銘柄豚肉」と「その他国産豚肉」が増加している。仕入形態は、「黒豚肉」「銘柄豚肉」が「部分肉パック」中心、「SPF豚肉」「その他国産豚肉」が「部分肉パック」中心。「輸入豚肉」は「部分肉パック」流通となっている。

鶏肉仕入は、「国産鶏肉」が90%程度、「輸入鶏肉」が10%。「輸入鶏肉」は徐々に増加している。

### 1. 食肉の肉種別仕入構成と仕入量（10月分）

#### (1) 肉種別仕入構成と仕入量

肉種別仕入量は、牛肉が1店当り978kg、豚肉が1,793kg、鶏肉が1,181kg。

平成18年10月1ヶ月間の1店当り食肉仕入量は3,013kgであり、このうち牛肉が30.4%、豚肉が56.1%、鶏肉が13.5%となっている。17年10月の食肉仕入量が3,274kgであるから、18年10月は約8%程度減少している。

図3-1 肉種別 / 仕入構成比(10月分)

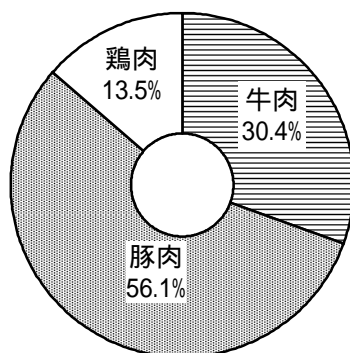


表3-1 肉種別仕入構成比

	回答数	仕入量/店	構成比
牛肉	568	978	30.4%
豚肉	571	1,793	56.1%
鶏肉	209	1,181	13.5%
計	606	3,013	100.0%

肉種別の回答店舗数が異なるため、肉種別仕入量を合計しても合計量と一致しない。

業態別にみると「百貨店」、「食肉専門店」、「農協・生協ストア」は牛肉の仕入比率が高い。

百貨店を除く各業態は、豚肉の仕入比率が50%以上を占めている。「食品スーパー」の豚肉仕入比率は58.8%、「食肉専門店」は57.6%、「総合スーパー」は52.3%である。一方、「百貨店」の豚肉仕入比率は36.0%であり、牛肉の仕入比率が49.4%になっている。

牛肉の仕入比率は、「百貨店」のほか、「食肉専門店」が35.0%、「農協・生協ストア」が31.3%、と他の業態に比べて高くなっている。

業態別の1店当り仕入量(10月分)は、「食品スーパー」が5,499kg/店と一番多く、続いて「総合スーパー」が5,375kg/店となっている。

### 【経年調査比較】

経年で見ると、各業態店舗ともに大きな変化は見られない。ただし、「食品スーパー」だけは仕入量が大幅に減少している。

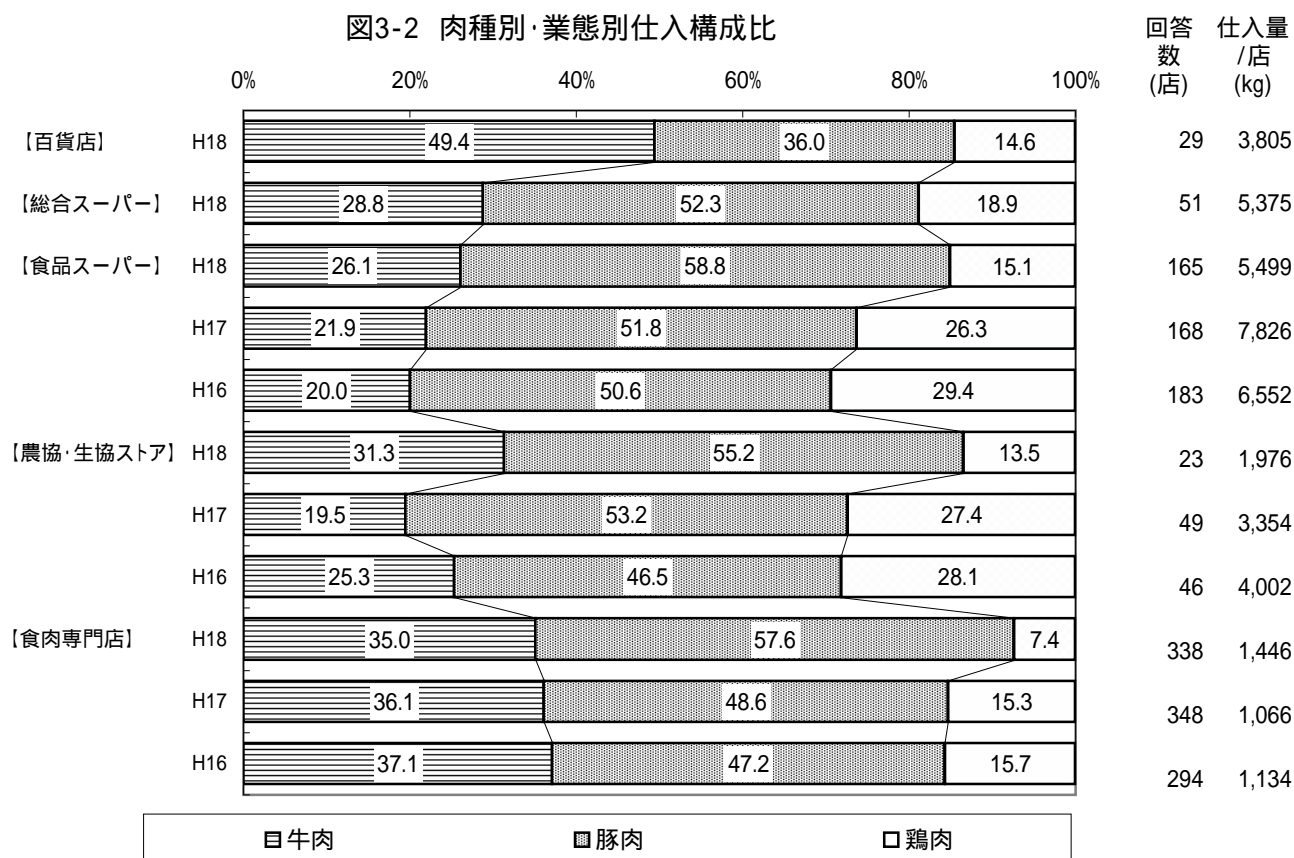
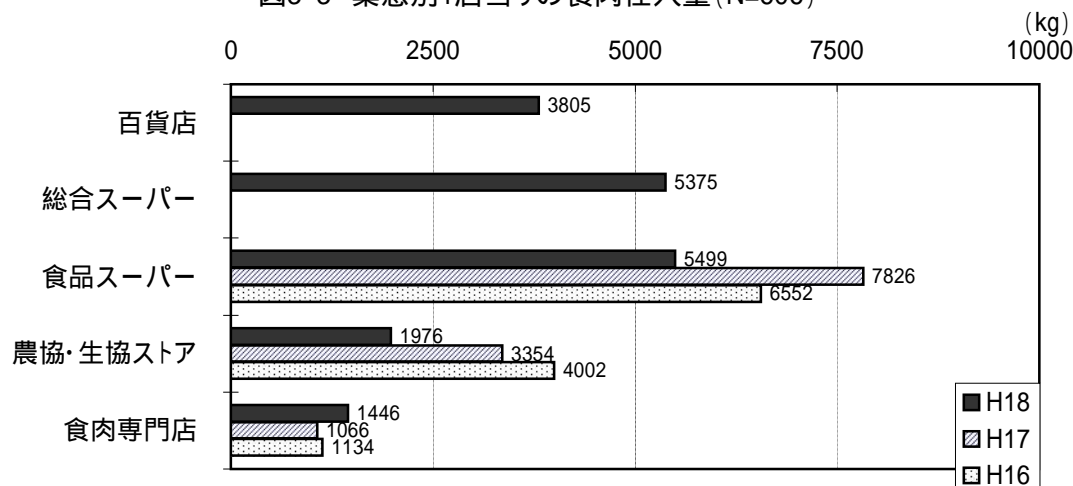


図3-3 業態別1店当りの食肉仕入量 (N=606)



東日本は豚肉仕入比率が60%以上、西日本は50%以下。

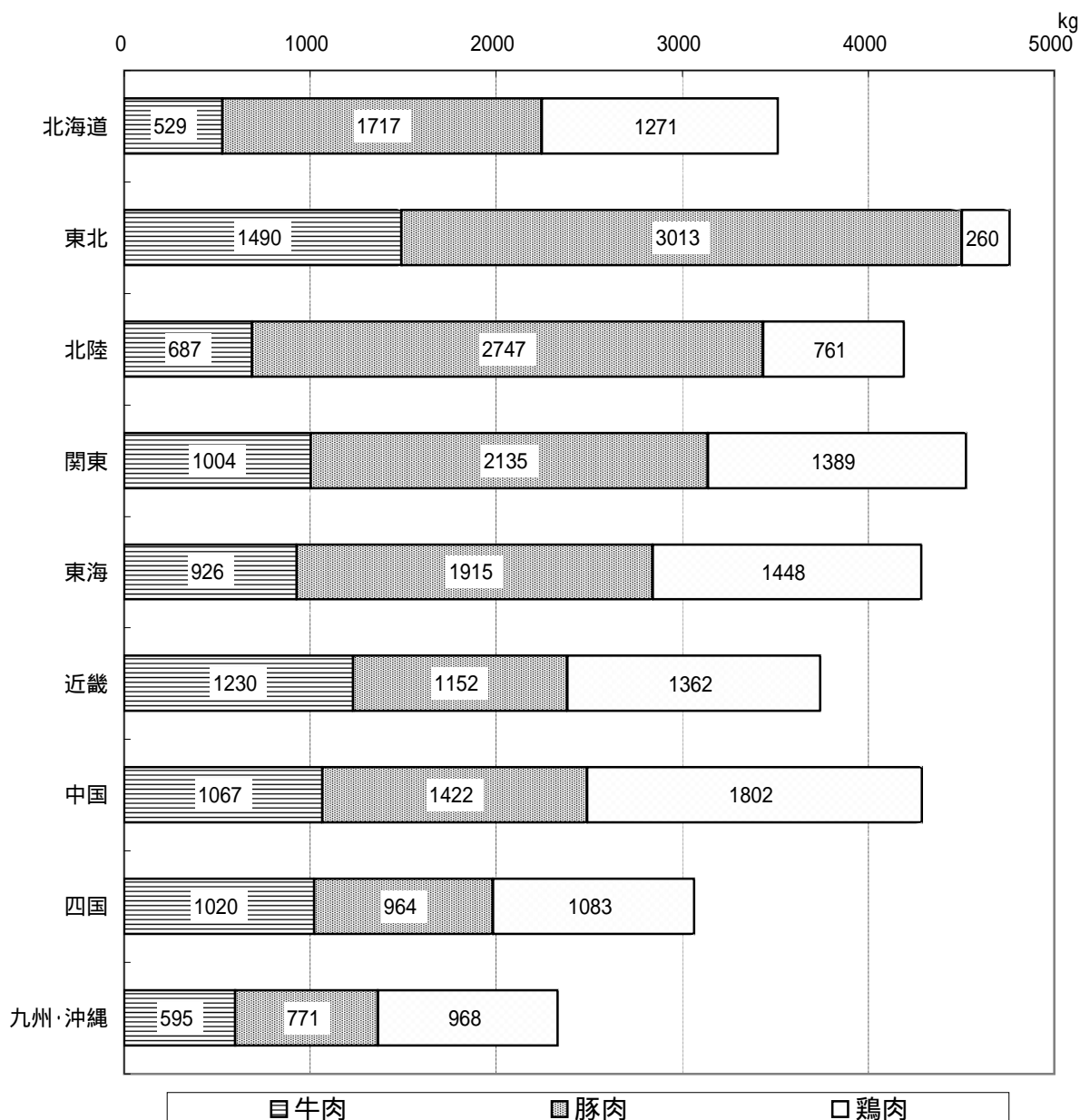
地域別に肉種別仕入構成みると、「北陸」、「北海道」、「東北」、「関東」など東日本地域では豚肉の仕入比率が60%を超えている（図3-5）。これに対し西日本各地域は豚肉の仕入比率は50%以下である。特に、「近畿」と「四国」は牛肉の仕入比率のほうが豚肉より高くなっている。

### 【経年調査比較】

1店当り仕入量合計では、「東北」、「関東」が多い。豚肉の仕入は「東北」が3,013kgと最も多く、牛肉は「東北」が1,490kg、「近畿」が1,230kgとなっている（図3-4）。

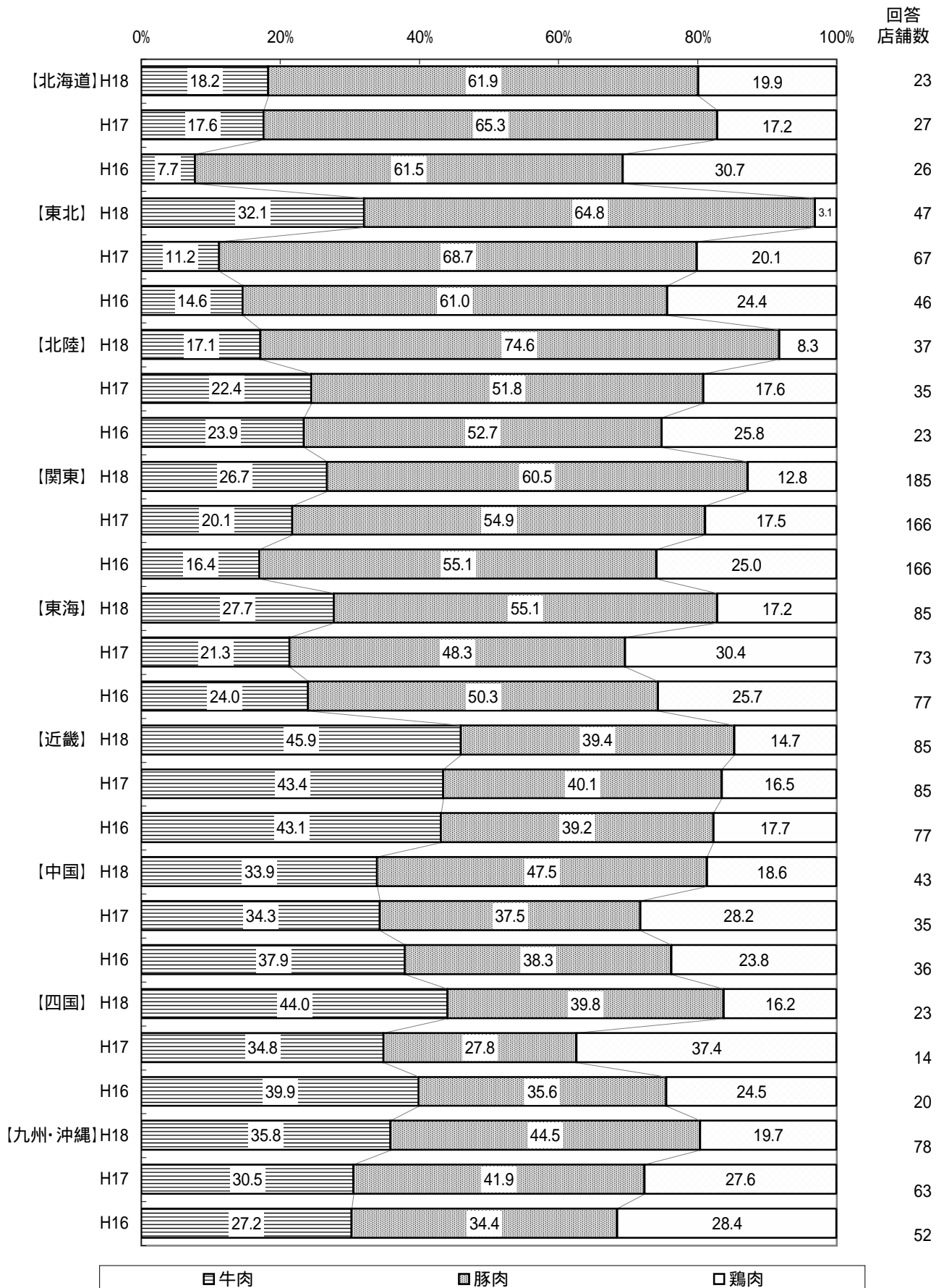
全体的には鶏肉の仕入が減少し、牛肉が増加している。特に「九州・沖縄」や「東北」、「関東」は牛肉の仕入が大きく伸びている（図3-5）。

図3-4 地域別・肉種別1店当り食肉仕入量 (N=606)



1店当り仕入量は、それぞれの肉種を仕入れた店舗数で肉種別総仕入量を除した平均仕入量である。したがって、「図3-4地域別肉種別1店当り食肉仕入量」はそれぞれの肉種別に当該肉種を仕入れた店舗数で除した平均値であるため、これを構成比で表しても、「図3-5 地域別・肉種別仕入構成比」の構成比と必ずしも一致しない。(以下同様)

図3-5 地域別・肉種別仕入構成比(10月分)



回答店舗数は各地域の仕入を行った店舗数

## 2. 牛肉仕入構成と仕入量（10月分）

### (1) 牛肉の仕入構成

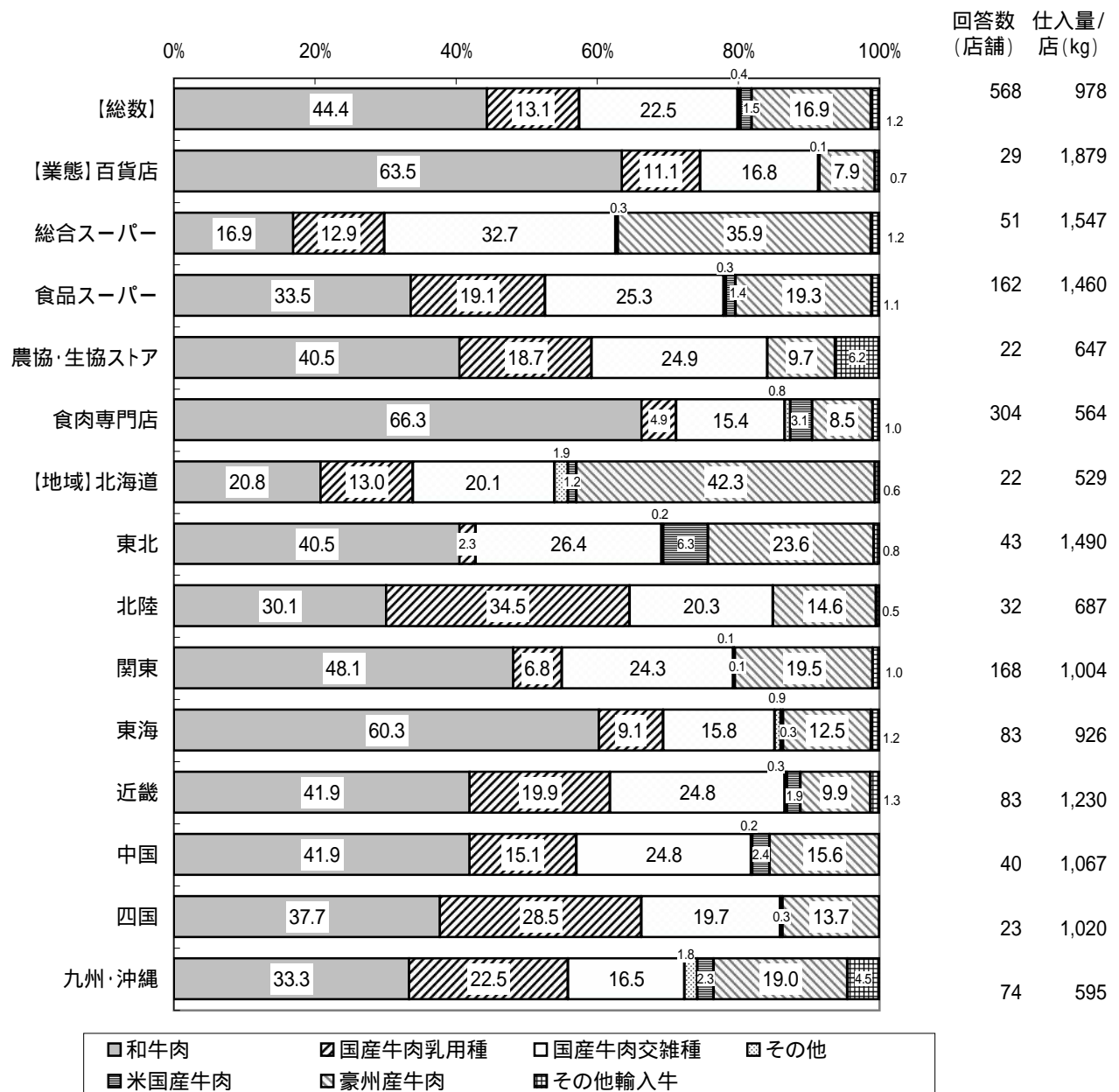
牛肉の仕入構成は「和牛肉」が44%、「国産交雑種」が23%、「豪州産牛肉」が17%。

牛肉の商品別仕入構成は図3-6に示すとおりである。特に「国産交雑種」は「豪州産牛肉」を抜き、最近、急速にシェアを拡大している。

業態別では、「食肉専門店」、「百貨店」は「和牛肉」が多く、それぞれ66.3%、63.5%を占めている。「食品スーパー」は「和牛肉」が33.5%であるが、「国産交雑種」が25.3%になり、「国産乳用種」の19.1%を超えている。「総合スーパー」では「国産交雑種」が32.7%と「和牛肉」の16.9%、「国産乳用種」の12.9%を大きく超えている。

地域別では「和牛肉」の仕入比率は、「東海」が60.3%で最も高い。続いて「関東」が48.1%、「近畿」が41.9%となっている。「国産交雑種」は「東北」が26.4%、「近畿」、「中国」が24.8%、「関東」が24.3%と各地域に満遍なく普及している。

図3-6 牛肉の品種別仕入構成(10月分)



仕入量は、牛肉の品種のいずれかを仕入れた店舗の平均仕入量であるため、以降の(2) ~ の平均仕入量の合計値と必ずしも一致しない。(以下同様)

「米国産牛肉」は調査時点の平成18年10月には輸入解禁されていた。(以下同様)

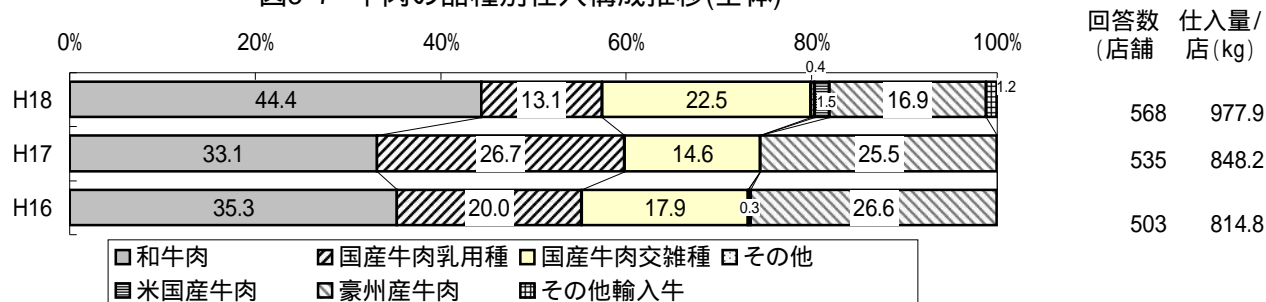
**【経年調査比較】**

牛肉の商品別仕入量推移は図3-7に示すとおりである。全体的にみると、「和牛肉」、「国産交雑種」が増加し、「国産乳用種」、「豪州産牛肉」が減少している。

業態別にみると、「食品スーパー」が「和牛肉」と「国産交雑種」を大きく増加させ、「国産乳用種」、「豪州産牛肉」を減少させている。「食肉専門店」は「和牛肉」、「国産交雑種」を若干増加させている。

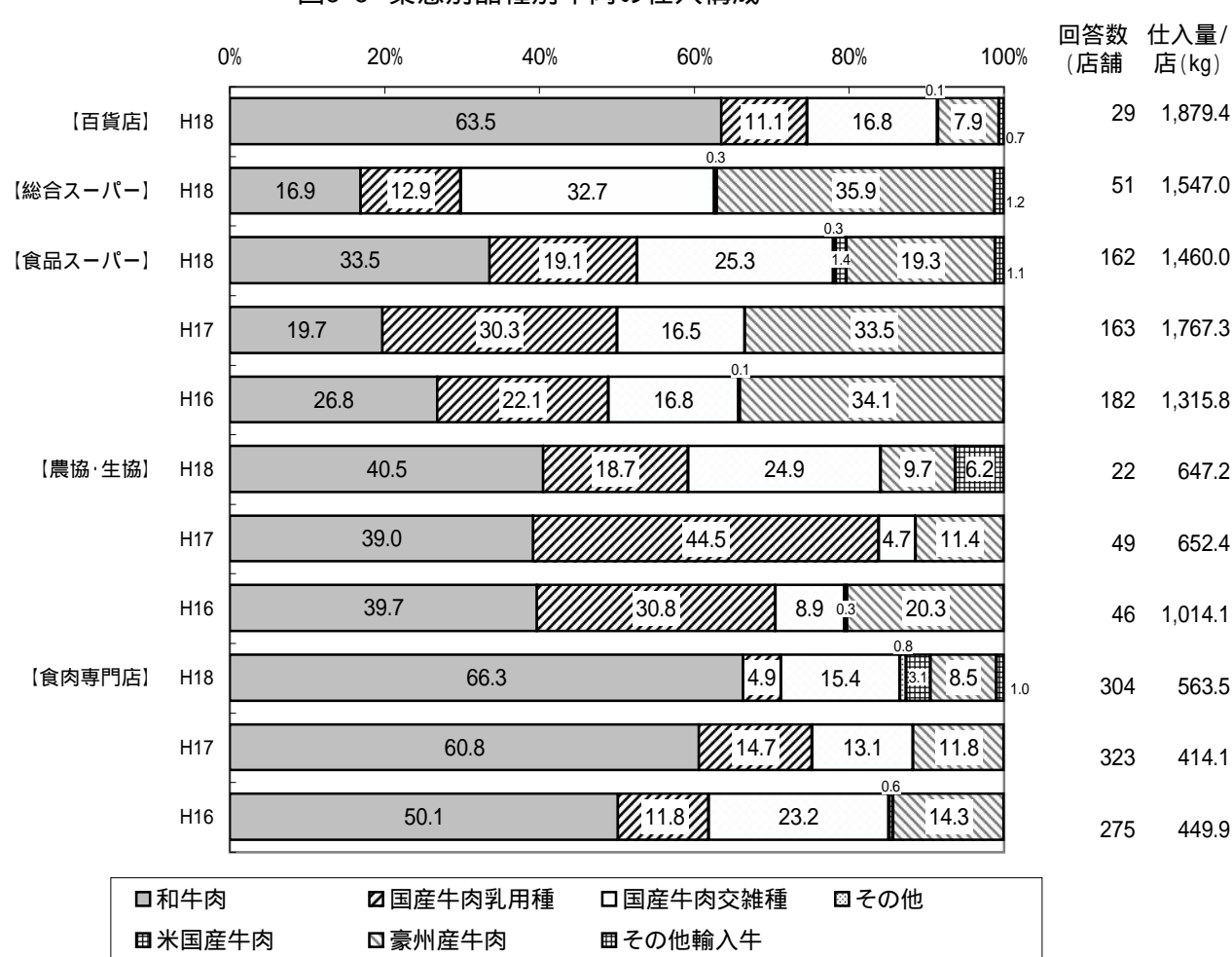
「農協・生協ストア」は「国産交雑種」の仕入を大きく伸ばしている。

図3-7 牛肉の品種別仕入構成推移(全体)



17年度、16年度の「その他国産牛肉」を「国産交雑種」と読み替えて比較している。

図3-8 業態別品種別牛肉の仕入構成



## (2) 商品別にみる牛肉の仕入形態

### 和牛肉

「和牛肉」平均仕入量は519kg/店。仕入形態は「パーツ」が38%、「セット」が31%、「枝肉」が30%

「和牛肉」の平均仕入量は、「百貨店」が1,194kg、「食品スーパー」が571kg、「食肉専門店」が456kgの順となっている。仕入形態は「総合スーパー」、「食品スーパー」、「農協・生協ストア」は「部分肉セット」が40～50%を占めているが、「食肉専門店」は「枝肉」が40.8%、「部分肉パーツ」が41.9%となっており、「部分肉セット」は17.3%に過ぎない。

地域別に「和牛肉」の1店当り平均仕入量を見ると、「東北」が683kg、「東海」が643kg、「中国」が596kg、「関東」が584kg、「近畿」が563kgとなっている。仕入形態では、1店当りの仕入量の多い「東北」、「東海」は枝肉仕入が50%以上となっている。「近畿」は「枝肉」が27.2%、「部分肉パーツ」が35.5%、「部分肉セット」が34.2%と仕入形態の多様化がみられる。「関東」は「部分肉パーツ」が49.0%であり、パーツ流通にシフトしている。

図3-9 和牛肉の形態別仕入量構成比

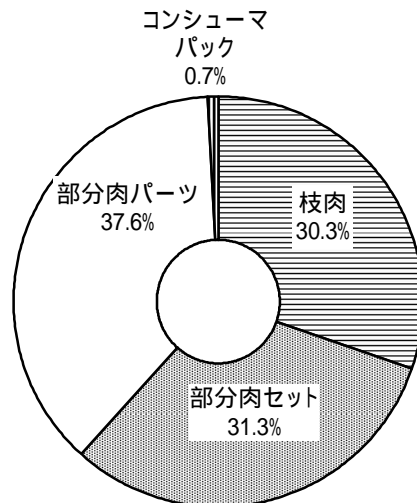


表3-2 和牛肉の商品別仕入構成比

(単位: kg, %)

	総仕入量	平均仕入量	回答数	形態別仕入量構成比				
				枝肉	部分肉セット	部分肉パーツ	コンシューマパック	
総数	246,622	519	475	30.3%	31.3%	37.6%	0.8%	
業態別	百貨店	34,617	1,194	29	28.9%	31.3%	39.8%	0.0%
	総合スーパー	13,338	303	44	15.9%	56.1%	27.9%	0.1%
	食品スーパー	79,327	571	139	19.8%	44.4%	33.4%	2.3%
	農協・生協ストア	5,760	411	14	24.9%	47.9%	25.3%	1.9%
	食肉専門店	113,580	456	249	40.8%	17.3%	41.9%	0.0%
地域別	北海道	2,423	151	16	33.0%	27.6%	39.4%	0.0%
	東北	25,936	683	38	58.5%	16.3%	25.2%	0.0%
	北陸	6,622	255	26	20.5%	48.6%	29.4%	1.5%
	関東	81,160	584	139	17.0%	33.4%	49.0%	0.7%
	東海	46,314	643	72	51.8%	19.3%	28.9%	0.0%
	近畿	42,768	563	76	27.2%	34.2%	35.5%	3.1%
	中国	17,866	596	30	15.2%	55.5%	29.2%	0.1%
	四国	8,845	442	20	37.8%	25.6%	36.6%	0.0%
	九州・沖縄	14,686	253	58	28.7%	34.2%	37.0%	0.1%

平均仕入量は、「和牛肉」を仕入れた店舗の平均値。

「枝肉」は部分肉ベース(歩留率70%)で換算して算出。(以下同様)

## 国産牛肉乳用種

「国産乳用種」の仕入量は307kg/店。仕入形態は「パーツ」が57%、「部分肉セット」が25%。

「国産乳用種」の10月の平均仕入量は、「百貨店」が465kg、「食品スーパー」が426kg、「総合スーパー」が319kgであり、「食肉専門店」は111kgで「百貨店」、「食品スーパー」の1/4である。

仕入形態は、「百貨店」が「部分肉パーツ」が49.7%を占めている。「総合スーパー」は「部分肉パーツ」が52.9%、「部分肉セット」が43.9%であり、両者で96%以上を占めている。「食品スーパー」は「部分肉パーツ」が56.7%、「部分肉セット」が23.6%、「コンシューマパック」が11.9%、「枝肉」が7.8%と多様な仕入形態となっている。「食肉専門店」は「部分肉パーツ」が66.4%、「部分肉セット」が22.9%と部分肉流通が主体となっている。「農協・生協ストア」も「部分肉パーツ」が70.5%を占めている。

地域別の平均仕入量は、「四国」が558kg、「近畿」が508kgと、他の地域から抜きん出て多いのに対し、「関東」は251kgに留まっている。「パーツ」仕入比率が高い地域は「中国」、「四国」、「東北」であり、これに「東海」、「近畿」、「関東」が続いている。「近畿」は仕入形態の多様化が進んでおり、「パーツ」が55.1%、「部分肉セット」が20.1%、「コンシューマパック」が14.8%、「枝肉」が10.0%となっている。このような仕入形態の多様化が進んでいる地域はこのほかには「関東」、「東海」であり、このような都市型地域では店舗タイプが多様であるため、仕入ニーズに伴って仕入形態の多様化が進んでいるように思われる。

図3-10 国産牛肉乳用種の形態別仕入構成比

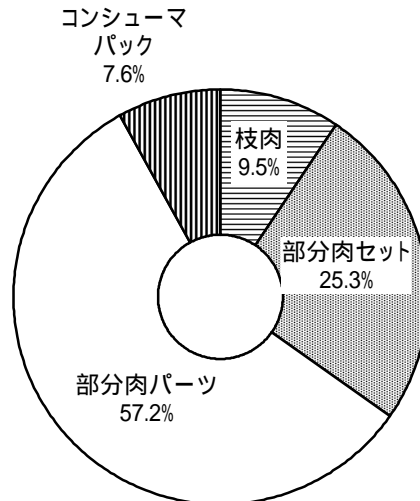


表3-3 国産牛肉乳用種の商品別仕入構成比

(単位:kg, %)

	総仕入量	平均仕入量	回答数	形態別仕入量構成比				
				枝肉	部分肉セット	部分肉パーツ	コンシューマパック	
総数	72,504	307	236	9.5%	25.3%	57.2%	7.9%	
業態別	百貨店	6,051	465	13	34.7%	15.6%	49.7%	0.0%
	総合スーパー	10,207	319	32	2.8%	43.9%	52.9%	0.4%
	食品スーパー	45,180	426	106	7.8%	23.6%	56.7%	11.9%
	農協・生協ストア	2,666	296	9	9.6%	9.8%	70.5%	10.2%
	食肉専門店	8,400	111	76	10.6%	22.9%	66.4%	0.1%
地域別	北海道	1,517	126	12	17.4%	39.2%	43.5%	0.0%
	東北	1,461	91	16	0.0%	14.4%	71.5%	14.1%
	北陸	7,588	345	22	5.3%	39.8%	47.6%	7.3%
	関東	11,552	251	46	16.3%	22.4%	53.7%	7.5%
	東海	7,005	242	29	11.5%	17.2%	61.9%	9.3%
	近畿	20,305	508	40	10.0%	20.1%	55.1%	14.8%
	中国	6,462	258	25	0.0%	16.3%	78.7%	5.0%
	四国	6,695	558	12	5.6%	20.0%	74.3%	0.0%
九州・沖縄	9,919	292	34	12.0%	43.3%	43.1%	1.6%	

平均仕入量は、「国産乳用種」を仕入れた店舗の平均値。

「枝肉」は部分肉ベース(歩留率70%)で換算して算出。(以下同様)



## 国産牛肉交雑種

「国産交雑種」の平均仕入量は、389kg。「パーツ」仕入が半分以上を占める。

「国産交雑種」の1店当り仕入量は、「総合スーパー」が717kg、「食品スーパー」が549kg、「百貨店」が435kgであり、「食肉専門店」は188kgに過ぎない。「総合スーパー」は「和牛肉」、「国産乳用種」から「国産交雑種」に徐々にシフトしている。「総合スーパー」の仕入形態は「部分肉パーツ」が65.4%を占めているのに対し、「食品スーパー」、「百貨店」は「部分肉パーツ」が主流であるが、「部分肉セット」、「枝肉」も利用している。「食肉専門店」も同様の傾向を見せている。

地域別の平均仕入量は、「東北」が768kg、「近畿」が478kg、「関東」が451kgの順となっている。仕入形態は、「関東」、「東北」、「北陸」は「部分肉パーツ」の比率が50%以上と高いのに対し、「北海道」、「中国」、「九州・沖縄」は「部分肉セット」の比率が50%を超えている。「近畿」、「東海」は各仕入形態ともにバランスが取れた構成となっている。

図3-11 国産牛肉交雑種の形態別仕入構成比

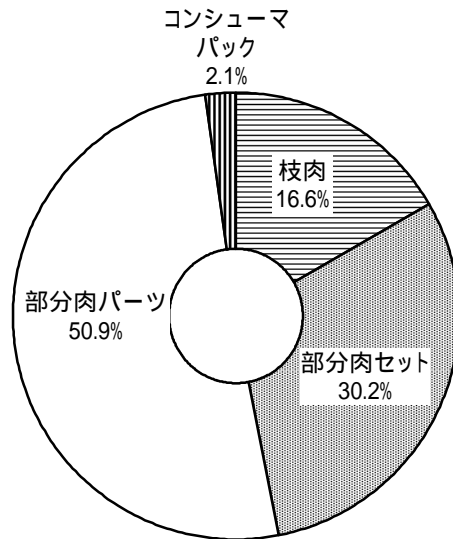


表3-4 国産牛肉交雑種の商品別仕入構成比 (単位: kg, %)

	総仕入量	平均仕入量	回答数	形態別仕入量構成比				
				枝肉	部分肉セット	部分肉パーツ	コンシューマパック	
総数	124,714	389	321	16.6%	30.2%	50.9%	2.3%	
業態別	百貨店	9,141	435	21	18.2%	37.4%	44.4%	0.0%
	総合スーパー	25,826	717	36	13.2%	20.2%	65.4%	1.2%
	食品スーパー	59,877	549	109	15.2%	29.6%	51.2%	4.1%
	農協・生協ストア	3,544	236	15	6.1%	66.4%	25.8%	1.7%
	食肉専門店	26,326	188	140	24.5%	34.2%	41.4%	0.0%
地域別	北海道	2,340	234	10	0.0%	60.7%	37.6%	1.7%
	東北	16,889	768	22	9.2%	4.1%	84.8%	1.8%
	北陸	4,463	223	20	17.7%	29.5%	52.1%	0.7%
	関東	41,046	451	91	16.8%	28.3%	54.6%	0.4%
	東海	12,170	259	47	27.5%	33.3%	38.6%	0.6%
	近畿	25,333	478	53	25.0%	25.2%	42.5%	7.3%
	中国	10,568	423	25	6.5%	58.2%	31.4%	3.9%
	四国	4,624	330	14	10.6%	44.7%	44.8%	0.0%
	九州・沖縄	7,283	187	39	12.0%	53.0%	35.0%	0.0%

平均仕入量は、「国産交雑種」を仕入れた店舗の平均値。

「枝肉」は部分肉ベース(歩留率70%)で換算して算出。(以下同様)

## 米国産牛肉

「米国産牛肉」は「食肉専門店」、「食品スーパー」の一部が仕入、全国で20店舗。

「米国産牛肉」は全国で20店が仕入れており、平成18年10月の平均仕入量は、「食品スーパー」が639kg、「食肉専門店」が411kgであった。「百貨店」は全く仕入れておらず、「総合スーパー」も1店のみの仕入となっている。仕入量では「食肉専門店」が大きく、全体の60%以上を占めている。

仕入形態は、「食肉専門店」が「部分肉パーツ」が80%、「食品スーパー」が「部分肉パーツ」(42%)と「コンシューマパック」(58%)であった。

図3-12 米国産牛肉の品種別仕入構成比

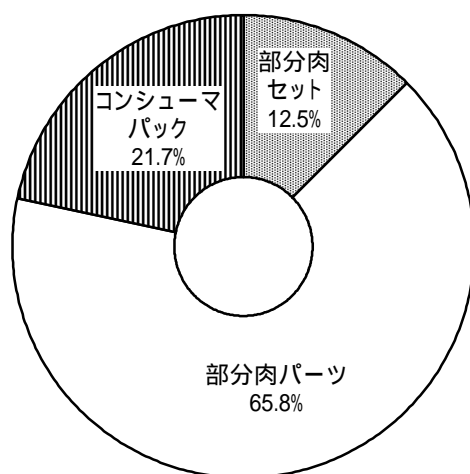


表3-5 米国産牛肉の商品別仕入構成比

(単位: kg, %)

	総仕入量	平均仕入量	回答数	形態別仕入量構成比				
				枝肉	部分肉セット	部分肉パーツ	コンシューマパック	
総数	8,571	429	20	0.0%	12.5%	65.8%	21.7%	
業態別	百貨店	0	-	0	-	-	-	
	総合スーパー	30	30	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	食品スーパー	3,197	639	5	0.0%	0.0%	41.8%	58.2%
	農協・生協ストア	5	5	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	食肉専門店	5,339	411	13	0.0%	20.0%	80.0%	0.0%
地域別	北海道	141	47	3	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	東北	4,039	1,346	3	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	北陸	0	-	0	-	-	-	-
	関東	119	30	4	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	東海	230	77	3	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	近畿	1,912	956	2	0.0%	0.0%	2.6%	97.4%
	中国	1,030	515	2	0.0%	97.1%	2.9%	0.0%
	四国	70	70	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	九州・沖縄	1,030	515	2	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

平均仕入量は、「米国産牛肉」を仕入れた店舗の平均値。

## 豪州産牛肉

「豪州産牛肉」の平均仕入量は328kg/店。仕入形態は、「部分肉パーツ」が77%。

「豪州産牛肉」の平成18年10月の1店当り平均仕入量は328kgである。業態別にみると「百貨店」が476kg、「総合スーパー」が629kg、「食品スーパー」が373kgであり、「百貨店」や「総合スーパー」、「食品スーパー」主導の仕入となっている。全体的にみると国産牛肉に押され、一時の拡大傾向は消えている。

仕入形態は「部分肉パーツ」での仕入の比重が高く、パーツ流通がメインとなっている。ただし、「農協・生協ストア」では「部分肉パーツ」と「部分肉セット」が半々となっている。

図3-13 豪州産牛肉の品種別仕入構成比

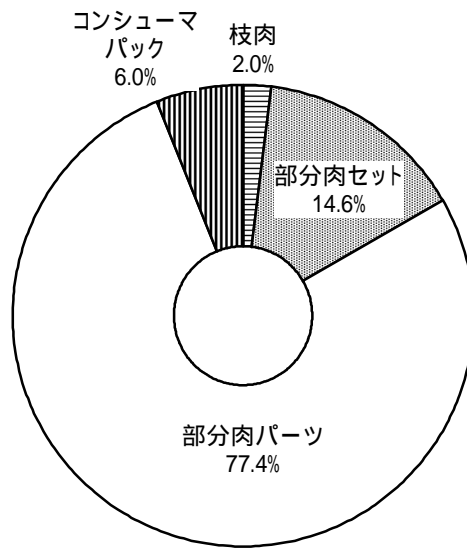


表3-6 豪州産牛肉の商品別仕入構成比

(単位: kg, %)

	総仕入量	平均仕入量	回答数	形態別仕入量構成比				
				枝肉	部分肉セット	部分肉パーツ	コンシューマパック	
総数	94,089	328	287	2.0%	14.6%	77.4%	6.1%	
業態別	百貨店	4,280	476	9	0.0%	8.4%	91.6%	0.0%
	総合スーパー	28,307	629	45	0.8%	11.5%	76.5%	11.2%
	食品スーパー	45,542	373	122	3.1%	14.4%	77.2%	5.3%
	農協・生協ストア	1,376	138	10	12.9%	43.2%	43.9%	0.0%
	食肉専門店	14,584	144	101	0.8%	20.4%	78.3%	0.5%
地域別	北海道	4,917	328	15	4.9%	40.7%	51.6%	2.8%
	東北	15,090	754	20	0.0%	0.0%	77.7%	22.3%
	北陸	3,220	268	12	0.0%	3.7%	96.3%	0.0%
	関東	32,950	388	85	4.8%	8.3%	86.8%	0.2%
	東海	9,581	274	35	1.6%	2.8%	84.1%	11.6%
	近畿	10,117	259	39	4.0%	14.6%	79.5%	1.9%
	中国	6,644	277	24	0.0%	40.6%	51.2%	8.1%
	四国	3,220	322	10	0.9%	38.2%	60.9%	0.0%
	九州・沖縄	8,350	178	47	3.6%	36.6%	56.9%	2.9%

平均仕入量は、「豪州産牛肉」を仕入れた店舗の平均値。

「枝肉」は部分肉ベース(歩留率70%)で換算して算出。(以下同様)

### 3. 豚肉仕入構成と仕入量（10月分）

#### (1) 豚肉の仕入構成

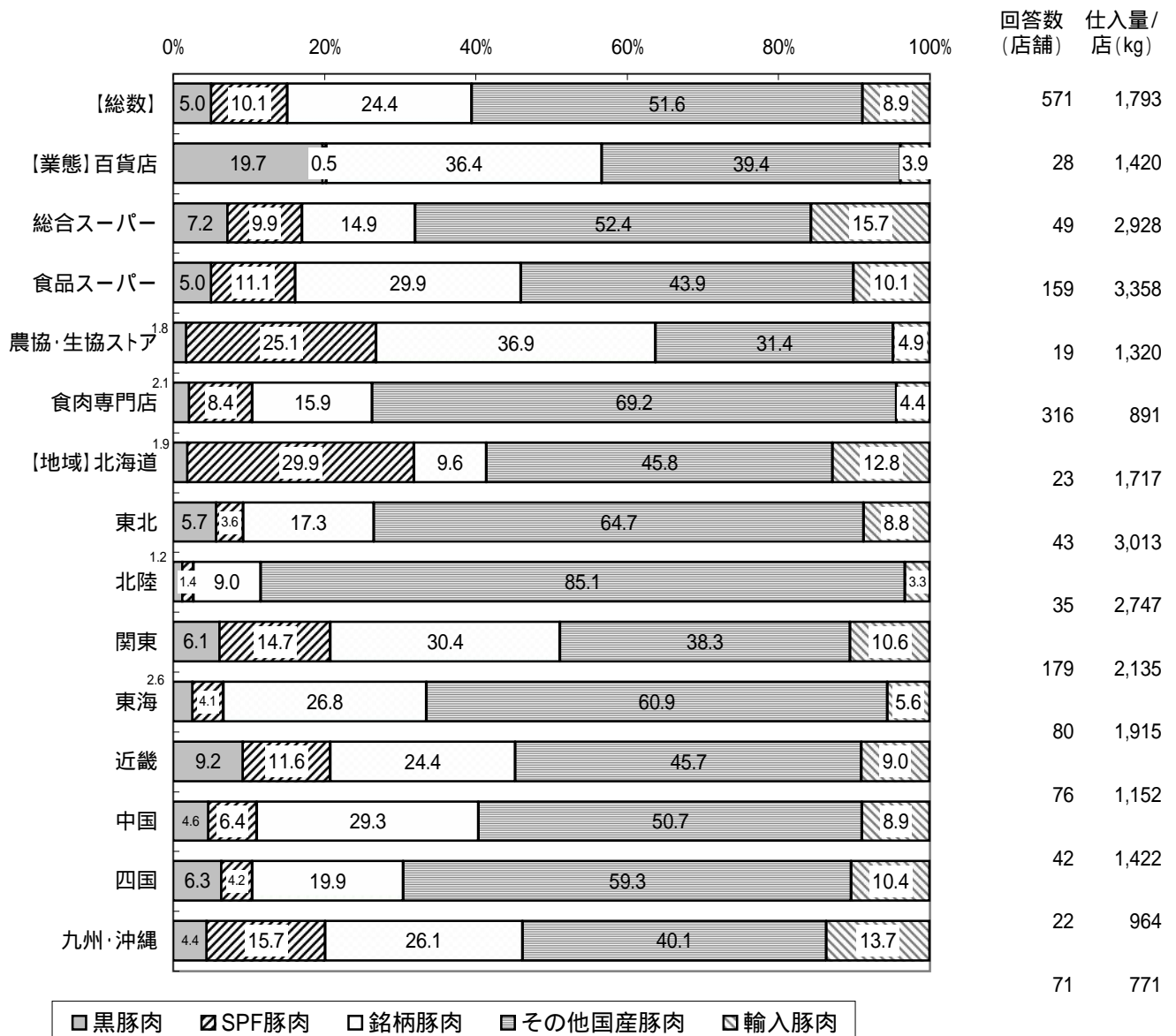
国産豚肉の仕入構成比は90%以上。「その他国産豚肉」が全体の50%以上。

豚肉の商品別仕入構成は図3-14のとおりである。国産豚肉は91.1%と、圧倒的なシェアを占めている。国産豚肉では「その他国産豚肉」が一番仕入構成比が高く、51.6%であり、続いて「銘柄豚肉」が24.4%である。「黒豚肉」の仕入構成比は5.0%、「SPF豚肉」は10.1%に過ぎなかった。

業態別にみると、「百貨店」の仕入構成比は、「その他国産豚肉」が39.4%、「銘柄豚肉」が36.4%、「黒豚肉」が19.7%であり、「黒豚肉」も含む銘柄志向（差別志向）が強く示されている。「総合スーパー」は「その他国産豚肉」が52.4%、「銘柄豚肉」が14.9%、「黒豚肉」が7.2%となっており、量販対応型販売指向が認められる。「食品スーパー」は「その他国産豚肉」が43.9%、「銘柄豚肉」が29.9%であり、量販対応型とともに銘柄志向も示されている。「農協・生協ストア」は、「銘柄豚肉」が36.9%、「その他国産豚肉」が31.4%、「SPF豚肉」が25.1%であり、銘柄・品質志向が認められる。「食肉専門店」は、「その他国産豚肉」が69.2%であり、豚肉販売に関してはブランド志向は低い。

地域別にみると、各地域ともに「その他国産豚肉」の仕入構成比が高くなっている。しかし、「銘柄豚肉」、「SPF豚肉」、「黒豚肉」の仕入が比較的多い地域は「関東」、「近畿」、「九州・沖縄」である。「北海道」は「SPF豚肉」志向がみられる。

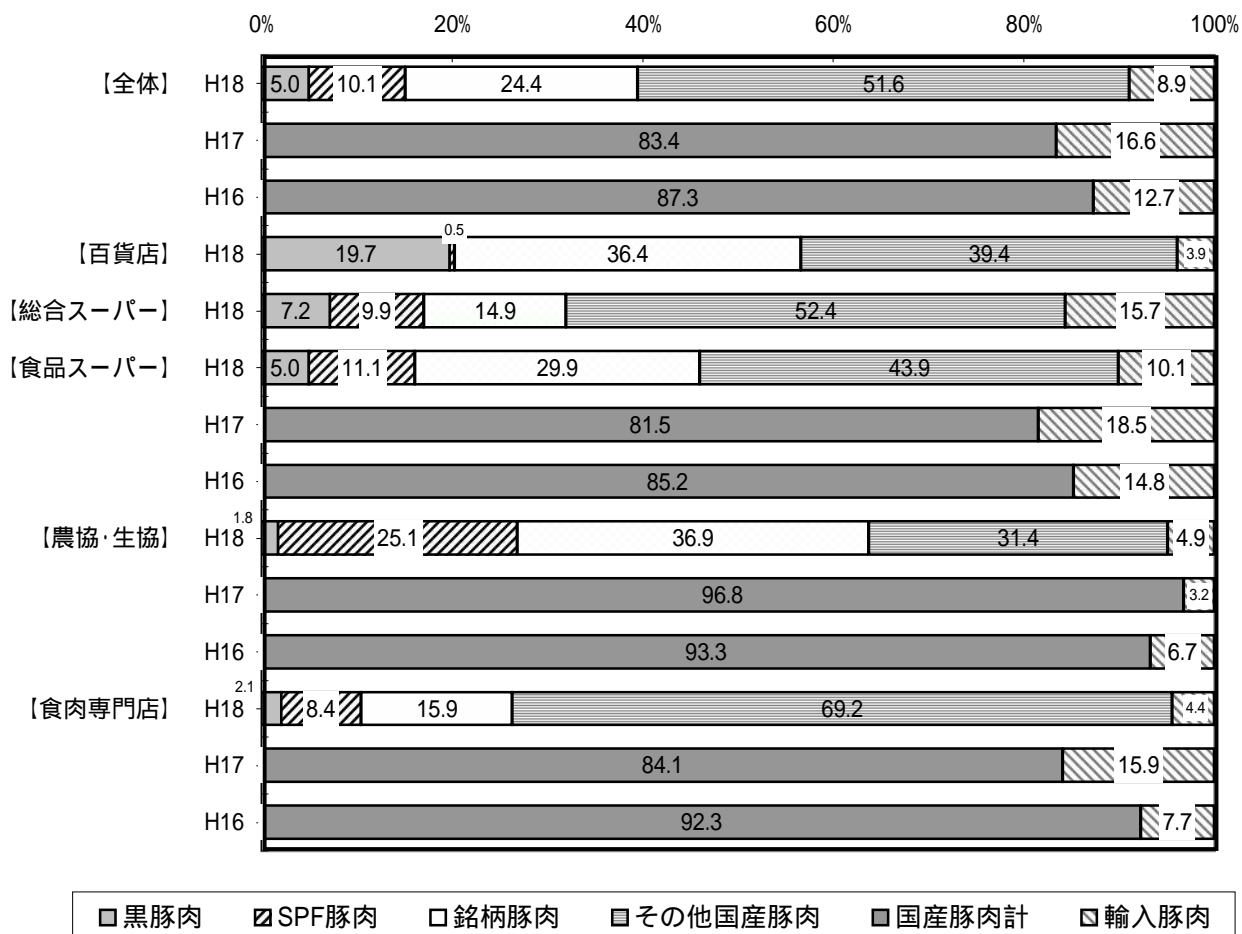
図3-14 豚肉の品種別仕入構成



### 【経年調査比較】

平成16年度以降、増加傾向にあった「輸入豚肉」は18年度に入って減少に転じている。17年度の国産豚肉の仕入構成比は83.4%であったが、18年度は国産豚肉が91.1%となっている。比較的「輸入豚肉」の仕入構成比の高い「食品スーパー」でも18年度は10.1%である。17年度が18.5%であるから大幅な低下となっている。「総合スーパー」の「輸入豚肉」仕入構成比は15.7%で、業態の中では一番輸入比率が高い。

図3-15 肉種別仕入構成推移(10月分)



平成18年調査は、それ以前の調査(H17、H16)の豚肉の肉種分類を改定し、より詳しい分類とした。したがって、平成18年では「黒豚肉」+「SPF豚肉」+「銘柄豚肉」+「その他国産豚肉」= 国産豚肉計である。(表3-7参照)

表3-7 豚肉の商品別仕入構成推移(10月分)

		黒豚肉	SPF豚肉	銘柄豚肉	その他国産豚肉	国産豚肉計	輸入豚肉	回答数(店舗)	仕入量/店(kg)
全体	H18	5.0%	10.1%	24.4%	51.6%	91.1%	8.9%	571	1,793
	H17	-	-	-	-	83.4%	16.6%	510	1,860
	H16	-	-	-	-	87.3%	12.7%	484	1,756
百貨店	H18	19.7%	0.5%	36.4%	39.4%	96.1%	3.9%	28	1,420
総合スーパー	H18	7.2%	9.9%	14.9%	52.4%	84.3%	15.7%	49	2,928
食品スーパー	H18	5.0%	11.1%	29.9%	43.9%	89.9%	10.1%	159	3,358
	H17	-	-	-	-	81.5%	18.5%	161	4,231
	H16	-	-	-	-	85.2%	14.8%	175	3,467
農協・生協ストア	H18	1.8%	25.1%	36.9%	31.4%	95.1%	4.9%	19	1,320
	H17	-	-	-	-	96.8%	3.2%	45	1,942
	H16	-	-	-	-	93.3%	6.7%	43	1,992
食肉専門店	H18	2.1%	8.4%	15.9%	69.2%	95.6%	4.4%	316	891
	H17	-	-	-	-	84.1%	15.9%	304	593
	H16	-	-	-	-	92.3%	7.7%	266	592

## (2)商品別にみる豚肉の仕入形態

### 黒豚肉

「黒豚肉」の1店当り仕入量は287kg。「部分肉セット」での仕入が53%、「部分肉パーツ」が30%。

「黒豚肉」の仕入形態は「部分肉セット」が53.3%、「部分肉パーツ」が30.7%、「枝肉」が14.0%である。

業態別にみると、平均仕入量は、「百貨店」が357kgで最も多く、「食品スーパー」が333kg、「総合スーパー」が332kgであり、「食肉専門店」は151kg、「農協・生協ストア」は73kgに過ぎない。仕入形態は、「百貨店」が「部分肉セット」が49.1%で半数近くを占めている。「総合スーパー」も「部分肉セット」仕入が66.3%で、セット購入の比率が高い。「食品スーパー」は「部分肉セット」が50.4%、「部分肉パーツ」が36.8%となっており、この2形態に集中している。「食肉専門店」も、「部分肉セット」が50.4%、「部分肉パーツ」が30.4%で、この2形態に集中している。ただ「農協・生協ストア」のみが「枝肉」、「部分肉セット」、「部分肉パーツ」の3形態のバランスが取れた仕入である。

地域別にみると、平均仕入量は「東北」が563kg、「関東」が457kgで、2地域が飛びぬけている。仕入形態は、「東北」、「関東」、「東海」、「九州・沖縄」が「部分肉セット」仕入が多いのに対し、「近畿」、「北海道」は3つの仕入形態がバランスよく利用されている。

図3-16 黒豚肉の品種別仕入構成比

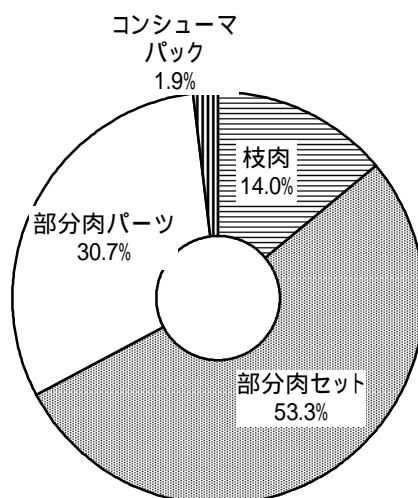


表3-8 黒豚肉の商品別仕入構成比 (単位:kg, %)

	総仕入量	平均仕入量	回答数	形態別仕入量構成比				
				枝肉	部分肉セット	部分肉パーツ	コンシューマパック	
総数	51,066	287	178	14.0%	53.3%	30.7%	2.0%	
業態別	百貨店	7,847	357	22	28.3%	49.1%	22.6%	0.0%
	総合スーパー	10,279	332	31	10.4%	66.3%	20.4%	3.0%
	食品スーパー	26,630	333	80	10.1%	50.4%	36.8%	2.7%
	農協・生協ストア	440	73	6	30.6%	32.1%	37.3%	0.0%
	食肉専門店	5,871	151	39	19.1%	50.4%	30.4%	0.0%
地域別	北海道	746	107	7	31.5%	32.0%	36.5%	0.0%
	東北	7,324	563	13	3.9%	81.4%	14.6%	0.0%
	北陸	1,176	235	5	50.7%	7.5%	41.8%	0.0%
	関東	23,296	457	51	11.5%	53.1%	34.3%	1.1%
	東海	3,943	232	17	27.8%	53.7%	18.5%	0.0%
	近畿	8,052	268	30	21.9%	33.8%	35.4%	9.0%
	中国	2,754	172	16	17.7%	40.5%	39.8%	2.0%
	四国	1,345	122	11	5.9%	49.8%	44.4%	0.0%
	九州・沖縄	2,431	87	28	3.8%	70.4%	25.4%	0.4%

平均仕入量は、「黒豚肉」を仕入れた店舗の平均値。

「枝肉」は部分肉ベース(歩留率70%)で換算して算出。(以下同様)

### SPF豚肉

「SPF豚肉」の1店当り仕入量は1,006kg、「部分肉パ-ツ」仕入が58%以上。

「SPF豚肉」の平均仕入量は、「食品スーパー」が2,121kg、「総合スーパー」が1,576kgとなっている。これに対し、「農協・生協ストア」は899kg、「食肉専門店」は414kgであり、スーパーと比べるとかなり低い仕入量となっている。

仕入形態は「総合スーパー」、「食品スーパー」ともに「部分肉パ-ツ」での仕入比率が多い。「総合スーパー」は、「部分肉パ-ツ」が73.2%、「食品スーパー」は62.8%となっている。これに対し「農協・生協ストア」、「食肉専門店」は「枝肉」、「部分肉セット」、「部分肉パ-ツ」の3仕入形態が比較的バランスよく利用されている。

地域別にみると、「北海道」と「関東」の平均仕入量が多くなっており、「北海道」が2,365kg、「関東」が1,754kgである。この地域の仕入形態は「部分肉パ-ツ」のウエイトが高くなっている。

図3-17 SPF豚肉の形態別仕入量構成比

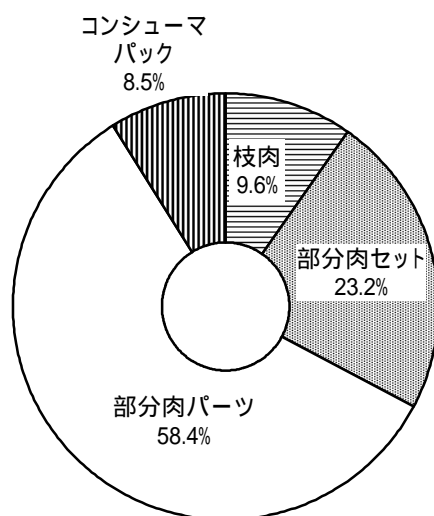


表3-9 SPF豚肉の商品別仕入構成比

(単位: kg, %)

	総仕入量	平均仕入量	回答数	形態別仕入量構成比				
				枝肉	部分肉セット	部分肉パ-ツ	コンシューマパック	
総数	103,669	1,006	103	9.6%	23.2%	58.4%	8.9%	
業態別	百貨店	215	108	2	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	総合スーパー	14,183	1,576	9	0.0%	15.5%	73.2%	11.3%
	食品スーパー	59,380	2,121	28	3.2%	22.5%	62.8%	11.5%
	農協・生協ストア	6,290	899	7	23.0%	34.9%	33.4%	8.7%
	食肉専門店	23,601	414	57	30.5%	27.2%	42.4%	0.0%
地域別	北海道	11,823	2,365	5	8.6%	12.3%	79.1%	0.0%
	東北	4,653	665	7	42.3%	45.0%	12.7%	0.0%
	北陸	1,377	275	5	12.5%	42.1%	45.4%	0.0%
	関東	56,134	1,754	32	8.3%	11.1%	69.7%	10.9%
	東海	6,228	519	12	20.9%	39.8%	39.2%	0.0%
	近畿	10,155	564	18	0.0%	28.8%	42.6%	28.7%
	中国	3,846	427	9	12.5%	60.8%	26.7%	0.0%
	四国	880	293	3	77.3%	10.6%	12.1%	0.0%
	九州・沖縄	8,573	714	12	0.8%	68.5%	30.7%	0.0%

平均仕入量は、「SPF豚肉」を仕入れた店舗の平均値。

「枝肉」は部分肉ベース(歩留率70%)で換算して算出。(以下同様)

### 銘柄豚肉

「銘柄豚肉」の平均仕入量は1,026kg、「部分肉セット」仕入が49.8%を占めている。

「銘柄豚肉」の平均仕入量は、「食品スーパー」が1,734kgと一番多く、続いて「百貨店」が851kg、「総合スーパー」が793kg、「農協・生協ストア」が712kgとなっている。「食肉専門店」は475kgとなっている。仕入形態は、各業態ともに「部分肉セット」仕入のウエイトが高くなっている。「百貨店」は「部分肉セット」が66.5%、「総合スーパー」が58.7%、「食品スーパー」が50.0%、「農協・生協ストア」が55.6%となっている。しかし、「食肉専門店」だけは「枝肉」、「部分肉セット」、「部分肉パーツ」の3つに仕入形態がほぼ同水準となっている。

地域別にみると、「関東」、「東北」、「東海」の平均仕入量が多く、「関東」が1,611kg、「東北」が1,401kg、「東海」が1,142kgである。仕入形態では、「関東」、「東海」、「近畿」などの都市型地域は「枝肉」、「部分肉セット」、「部分肉パーツ」の3つ形態の比率が高くなっており、1つの仕入形態に偏ることはない。

図3-18 銘柄豚肉の形態別仕入量構成比

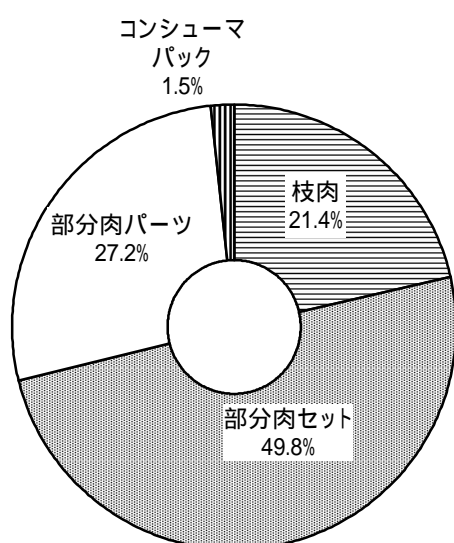


表3-10 銘柄豚肉の商品別仕入構成比

(単位: kg、%)

	総仕入量	平均仕入量	回答数	形態別仕入量構成比				
				枝肉	部分肉セット	部分肉パーツ	コンシューマパック	
総数	249,367	1,026	243	21.4%	49.8%	27.2%	1.6%	
業態別	百貨店	14,463	851	17	22.3%	66.5%	11.2%	0.0%
	総合スーパー	21,412	793	27	4.2%	58.7%	35.8%	1.3%
	食品スーパー	159,554	1,734	92	23.7%	50.0%	24.5%	1.8%
	農協・生協ストア	9,252	712	13	0.9%	55.6%	33.7%	9.8%
	食肉専門店	44,686	475	94	26.8%	37.2%	35.9%	0.0%
地域別	北海道	3,785	315	12	4.9%	61.4%	32.6%	1.2%
	東北	22,423	1,401	16	4.7%	62.2%	33.1%	0.0%
	北陸	8,611	574	15	18.5%	24.2%	57.4%	0.0%
	関東	116,027	1,611	72	26.8%	48.1%	25.1%	0.0%
	東海	41,106	1,142	36	39.6%	35.1%	22.6%	2.7%
	近畿	21,399	594	36	16.3%	51.0%	19.2%	13.4%
	中国	17,517	922	19	0.7%	67.4%	31.6%	0.3%
	四国	4,218	422	10	19.8%	56.3%	23.9%	0.0%
	九州・沖縄	14,283	529	27	2.0%	65.0%	32.9%	0.1%

平均仕入量は、「銘柄豚肉」を仕入れた店舗の平均値。

「枝肉」は部分肉ベース(歩留率70%)で換算して算出。(以下同様)



### その他国産豚肉

「その他国産豚肉」の平均仕入量は1,324kg、「部分肉パ-ツ」の仕入が53%を占める。

「その他国産豚肉」の平均仕入量は、「食品スーパー」が2,133kg、「総合スーパー」が1,926kgであり、「農協・生協ストア」や「食肉専門店」はスーパーの半分程度の仕入量となっている。仕入形態では、「食品スーパー」と「総合スーパー」がほぼ同一構成となっており、「部分肉パ-ツ」が48%、「部分肉セット」が36%である。「食肉専門店」は「部分肉パ-ツ」が61.0%、「枝肉」が28.8%であり、「農協・生協ストア」は「部分肉セット」が44.3%、「枝肉」が30.1%となっている。

地域別にみると「北陸」、「東北」の平均仕入量が非常に多くなっている。「北陸」は3,147kg、「東北」は2,704kgである。仕入形態では、「北海道」、「北陸」、「四国」、「近畿」は「部分肉パ-ツ」仕入依存度が高い。

図3-19 その他国産豚肉の形態別仕入量構成比

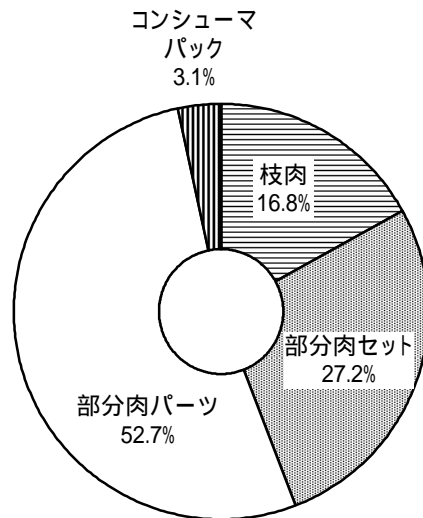


表3-11 その他国産豚肉の商品別仕入構成比 (単位:kg、%)

	総仕入量	平均仕入量	回答数	形態別仕入量構成比				
				枝肉	部分肉セット	部分肉パ-ツ	コンシューマパック	
総数	528,263	1,324	399	16.8%	27.2%	52.7%	3.3%	
業態別	百貨店	15,688	747	21	10.5%	30.4%	55.2%	3.8%
	総合スーパー	75,129	1,926	39	5.8%	36.1%	48.4%	9.7%
	食品スーパー	234,613	2,133	110	11.2%	36.7%	48.3%	3.7%
	農協・生協ストア	7,878	985	8	30.1%	44.3%	23.5%	2.1%
	食肉専門店	194,956	882	221	28.8%	10.2%	61.0%	0.1%
地域別	北海道	18,068	951	19	14.0%	21.5%	60.5%	4.0%
	東北	83,817	2,704	31	39.0%	13.8%	40.9%	6.3%
	北陸	81,822	3,147	26	3.3%	8.1%	88.3%	0.4%
	関東	146,335	1,240	118	19.2%	29.3%	47.6%	3.8%
	東海	93,367	1,582	59	19.4%	53.4%	24.8%	2.3%
	近畿	40,057	801	50	8.9%	19.9%	65.0%	6.2%
	中国	30,286	1,082	28	3.1%	46.9%	46.9%	3.1%
	四国	12,561	785	16	0.0%	6.0%	94.0%	0.0%
	九州・沖縄	21,950	422	52	13.5%	27.8%	57.3%	1.4%

平均仕入量は、「その他国産豚肉」を仕入れた店舗の平均値。

「枝肉」は部分肉ベース(歩留率70%)で換算して算出。(以下同様)

## 輸入豚肉

「輸入豚肉」の平均仕入量は396kg、ほとんどが「部分肉パ-ツ」で仕入れている。

「輸入豚肉」の平均仕入量は、「総合スーパー」が625kg、「食品スーパー」が493kgに対して「農協・生協ストア」は122kg、「食肉専門店」は183kg、「百貨店」は195kgに過ぎない。仕入形態は業態にかかわらず、「部分肉パ-ツ」が92%前後を占めている。

地域別にみると、平均仕入量は「東北」、「関東」が多く、「東北」が873kg、「関東」が517kgである。

図3-20 輸入豚肉の形態別仕入量構成比

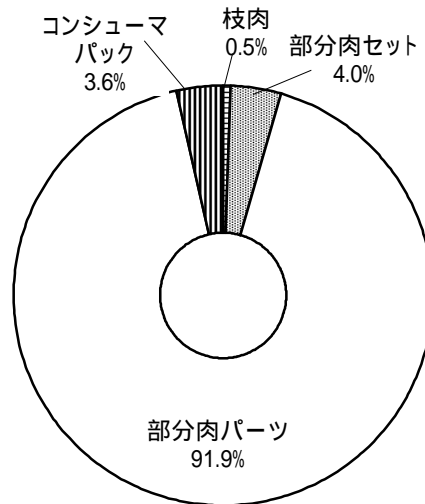


表3-12 輸入豚肉の商品別仕入構成比 (単位:kg, %)

	総仕入量	平均仕入量	回答数	形態別仕入量構成比				
				枝肉	部分肉セット	部分肉パ-ツ	コンシューマパック	
総数	91,377	396	231	0.5%	4.0%	91.9%	3.6%	
業態別	百貨店	1,556	195	8	0.0%	11.2%	88.8%	0.0%
	総合スーパー	22,492	625	36	0.5%	0.4%	92.9%	6.2%
	食品スーパー	53,684	493	109	0.3%	5.6%	90.8%	3.3%
	農協・生協ストア	1,222	122	10	0.0%	16.2%	83.8%	0.0%
	食肉専門店	12,423	183	68	1.5%	1.7%	95.9%	0.9%
地域別	北海道	5,069	390	13	0.3%	0.0%	80.0%	19.8%
	東北	11,352	873	13	0.0%	0.0%	97.5%	2.5%
	北陸	3,153	243	13	0.0%	7.2%	92.8%	0.0%
	関東	40,335	517	78	0.4%	3.5%	93.8%	2.3%
	東海	8,562	268	32	1.2%	1.5%	96.0%	1.2%
	近畿	7,895	329	24	0.0%	12.7%	81.3%	6.0%
	中国	5,338	297	18	2.5%	0.3%	89.3%	7.9%
	四国	2,195	314	7	0.0%	2.3%	97.7%	0.0%
	九州・沖縄	7,478	227	33	0.0%	10.8%	87.8%	1.3%

平均仕入量は、「輸入豚肉」を仕入れた店舗の平均値。

「枝肉」は部分肉ベース(歩留率70%)で換算して算出。(以下同様)

## 4. 鶏肉仕入構成と仕入量（10月分）

### (1) 鶏肉の仕入構成

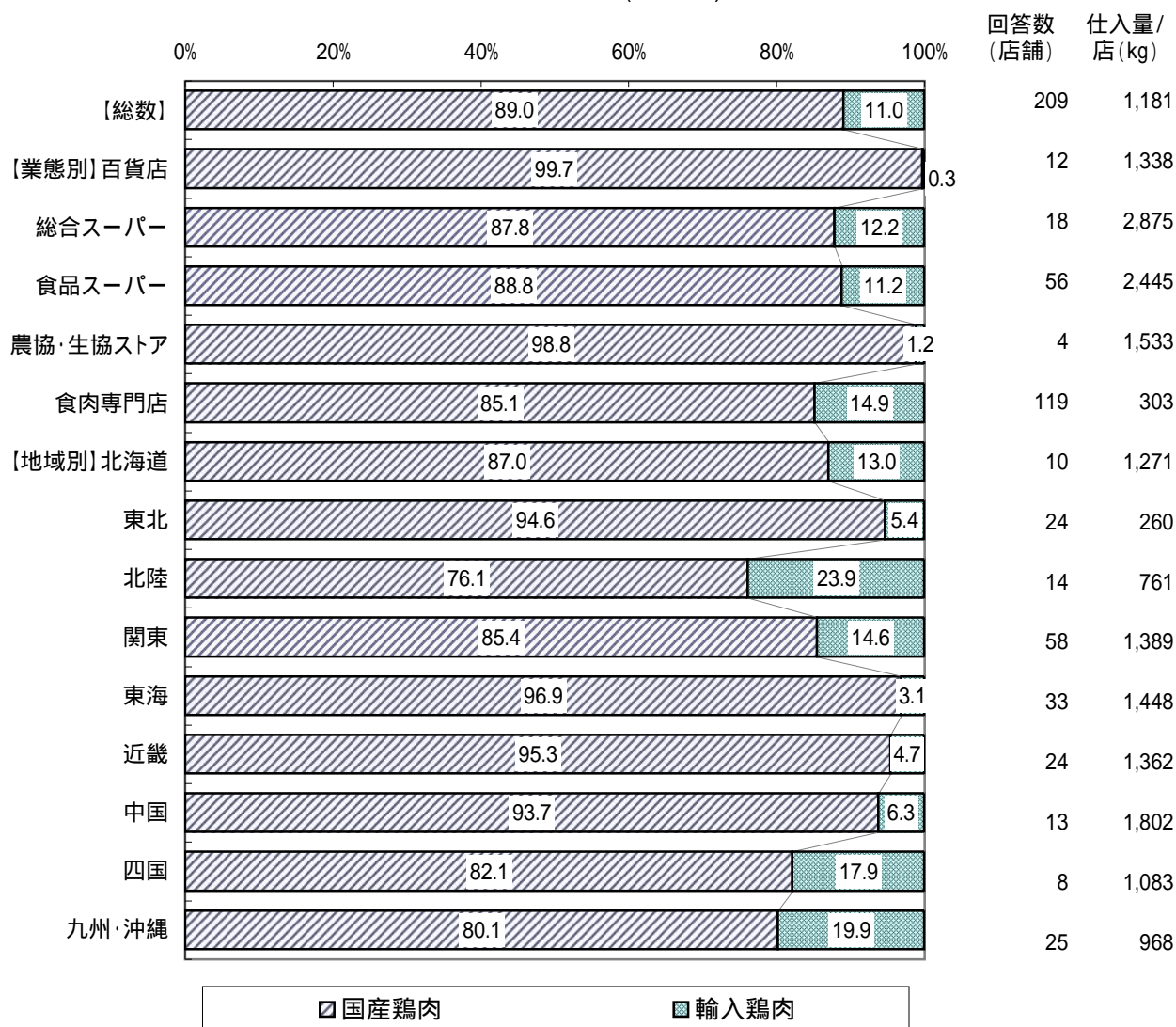
「国産鶏肉」の平均仕入量は1,181kg、仕入構成比は90%程度である。

鶏肉の商品別仕入構成は、図3-21に示したとおり、「国産鶏肉」が89.0%を占めている。業態別にみると、「食肉専門店」の「国産鶏肉」の仕入構成比は85.1%で最も低く、「百貨店」は99.7%に達している。「食品スーパー」が88.8%、「総合スーパー」が87.8%、「農協・生協ストア」が98.8%となっている。

平均仕入量は、「総合スーパー」が2,875kg、「食品スーパー」が2,445kgであり、「食肉専門店」が303kgとなっている。

地域別にみると、「東海」、「近畿」、「東北」、「中国」で「国産鶏肉」の仕入構成比が高く、93%以上であり、「北陸」、「九州・沖縄」、で「輸入鶏肉」の比率が全国平均と比べると高く、20%程度となっている。

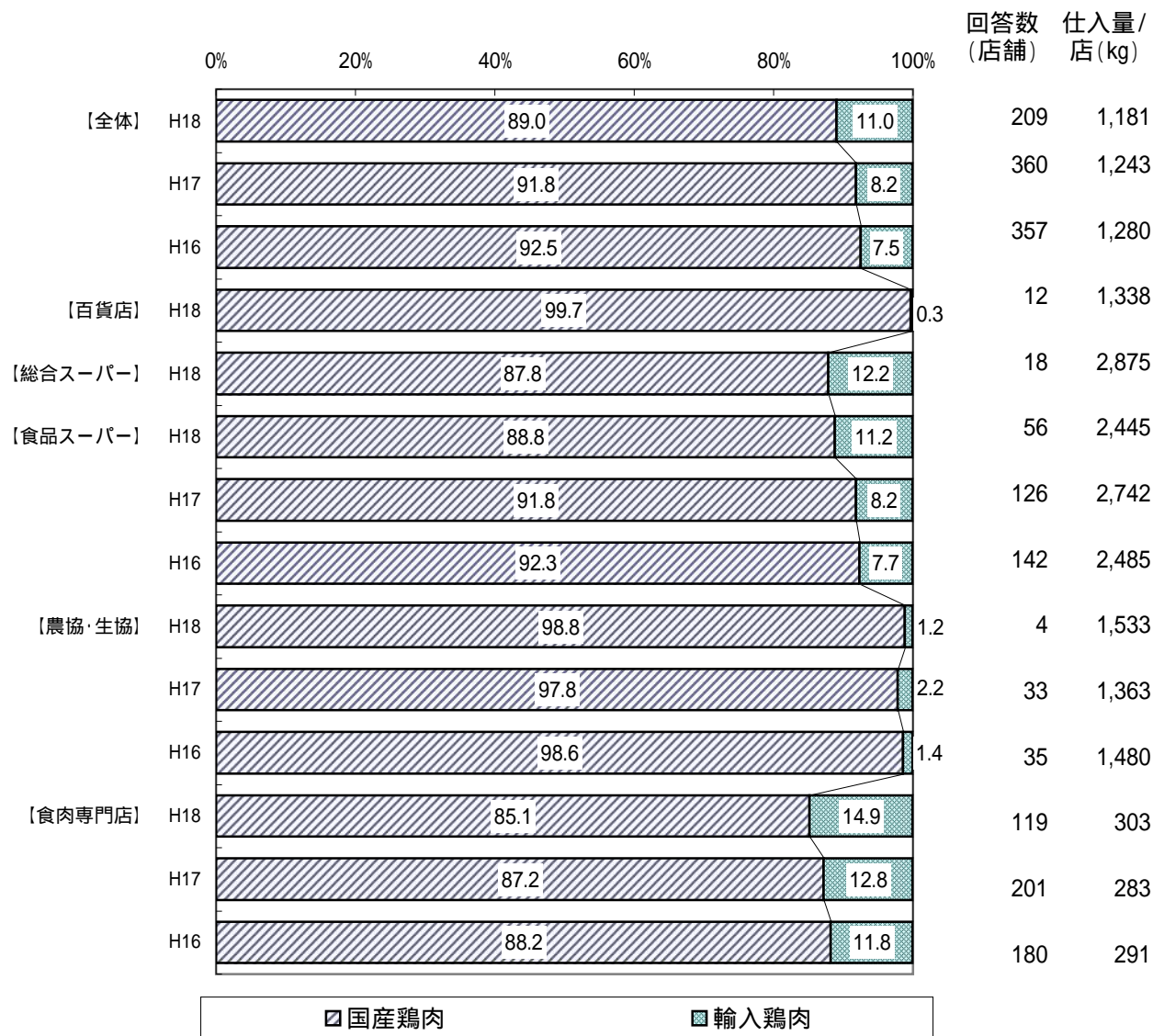
図3-21 鶏肉の品種別仕入構成(10月分)



**【経年調査比較】**

鶏肉の経年変化をみると、年々「輸入鶏肉」の仕入が増加している（図3-22）。平成17年度には8.2%であった「輸入鶏肉」の仕入構成比は、18年度には11.0%に達している。特に、「食品スーパー」の「輸入鶏肉」の仕入比率は11.2%、「総合スーパー」が12.2%、「食肉専門店」が14.9%になっている。

図3-22 鶏肉の品種別仕入構成推移(10月分)



## 5. 食肉仕入時の重視項目

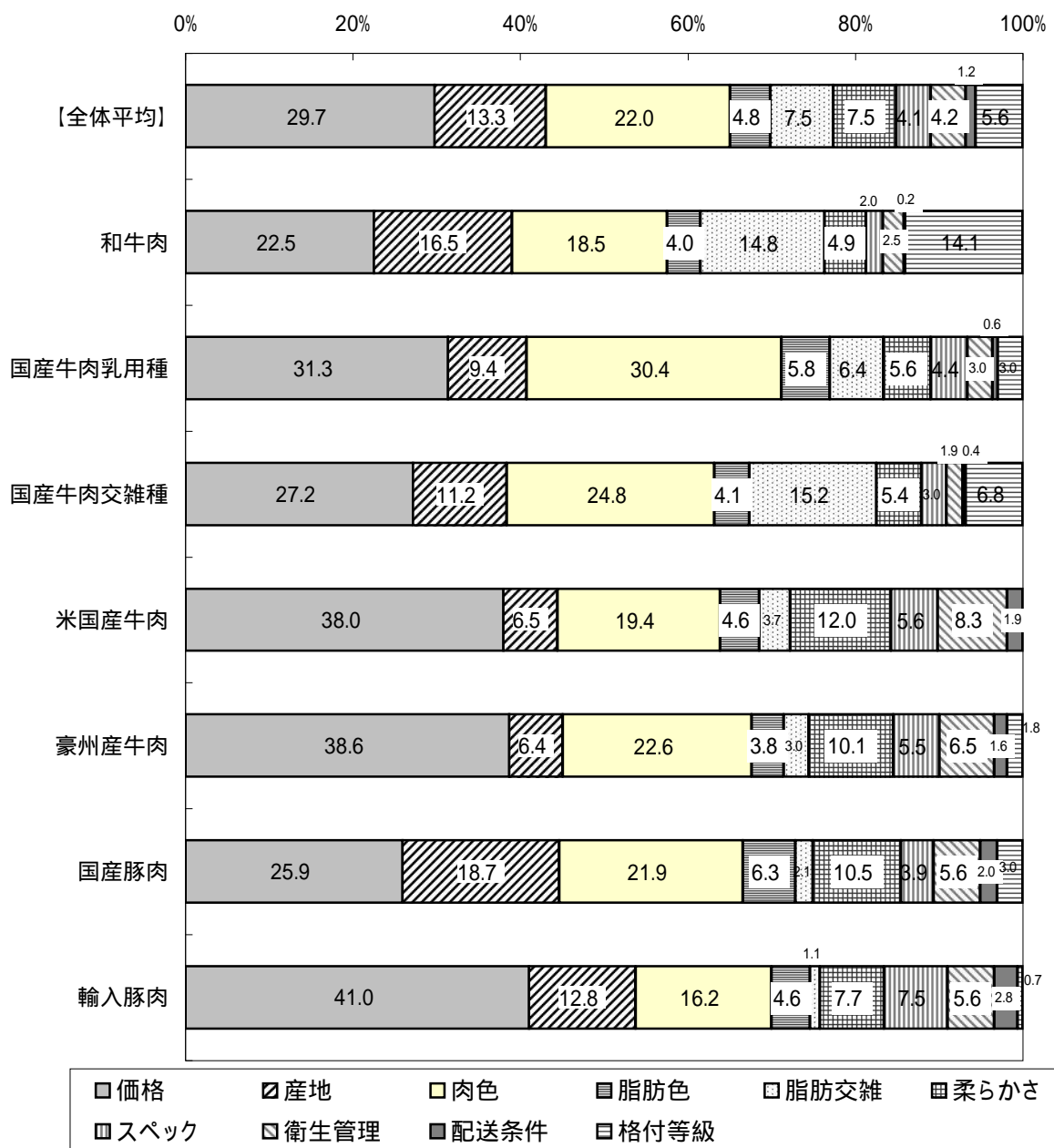
### (1) 品種別食肉仕入の重視項目

食肉仕入の際には、価格、肉色、産地が重視されている。

食材仕入の重視項目は図3-23に示したとおりである。

「和牛肉」	「価格」22.5%、「肉色」18.5%、「産地」16.5%、「脂肪交雑」14.8%
「国産乳用種」	「価格」31.3%、「肉色」30.4%、「産地」9.4%
「国産交雑種」	「価格」27.2%、「肉色」24.8%、「脂肪交雑」15.2%
「米国産牛肉」	「価格」38.0%、「肉色」19.4%、「柔らかさ」12.0%
「豪州産牛肉」	「価格」38.6%、「肉色」22.6%、「柔らかさ」10.1%
「国産豚肉」	「価格」25.9%、「肉色」21.9%、「産地」18.7%、
「輸入豚肉」	「価格」41.0%、「肉色」16.2%、「産地」12.8%、

図3-23 品種別食肉仕入の重視項目



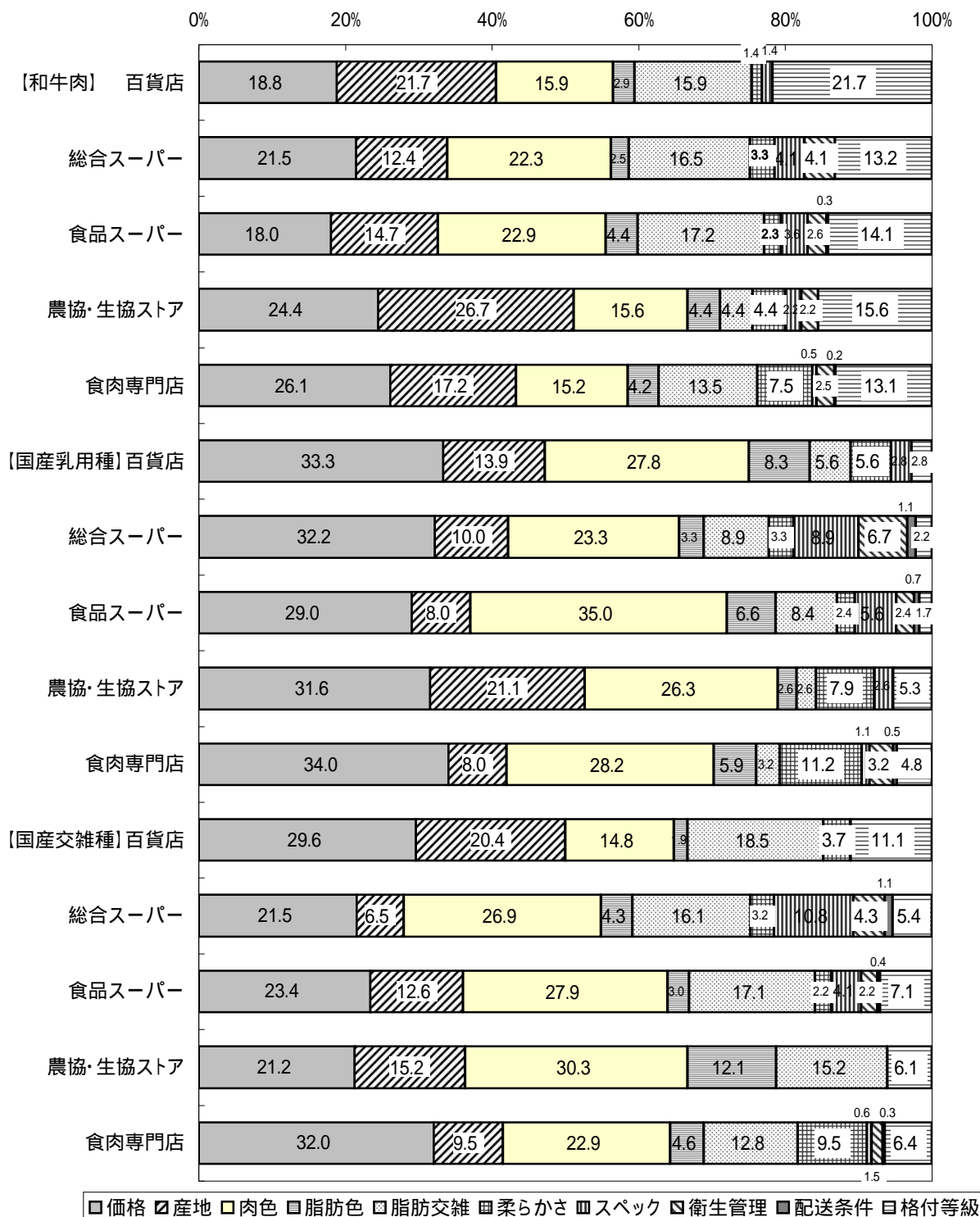
## (2)業態別の食肉仕入の重視項目

### 国産牛肉

「百貨店」は「産地」「格付等級」重視。「食品スーパー」は「肉色」「脂肪交雑」重視

「百貨店」は「和牛肉」に対して「産地」「格付等級」を重視する。「総合スーパー」「食品スーパー」は「肉色」「価格」「脂肪交雑」を重視する。「農協・生協ストア」「食肉専門店」は「価格」「産地」を重視する

図3-24 肉種別業態別食肉仕入の重視項目(国産牛肉)

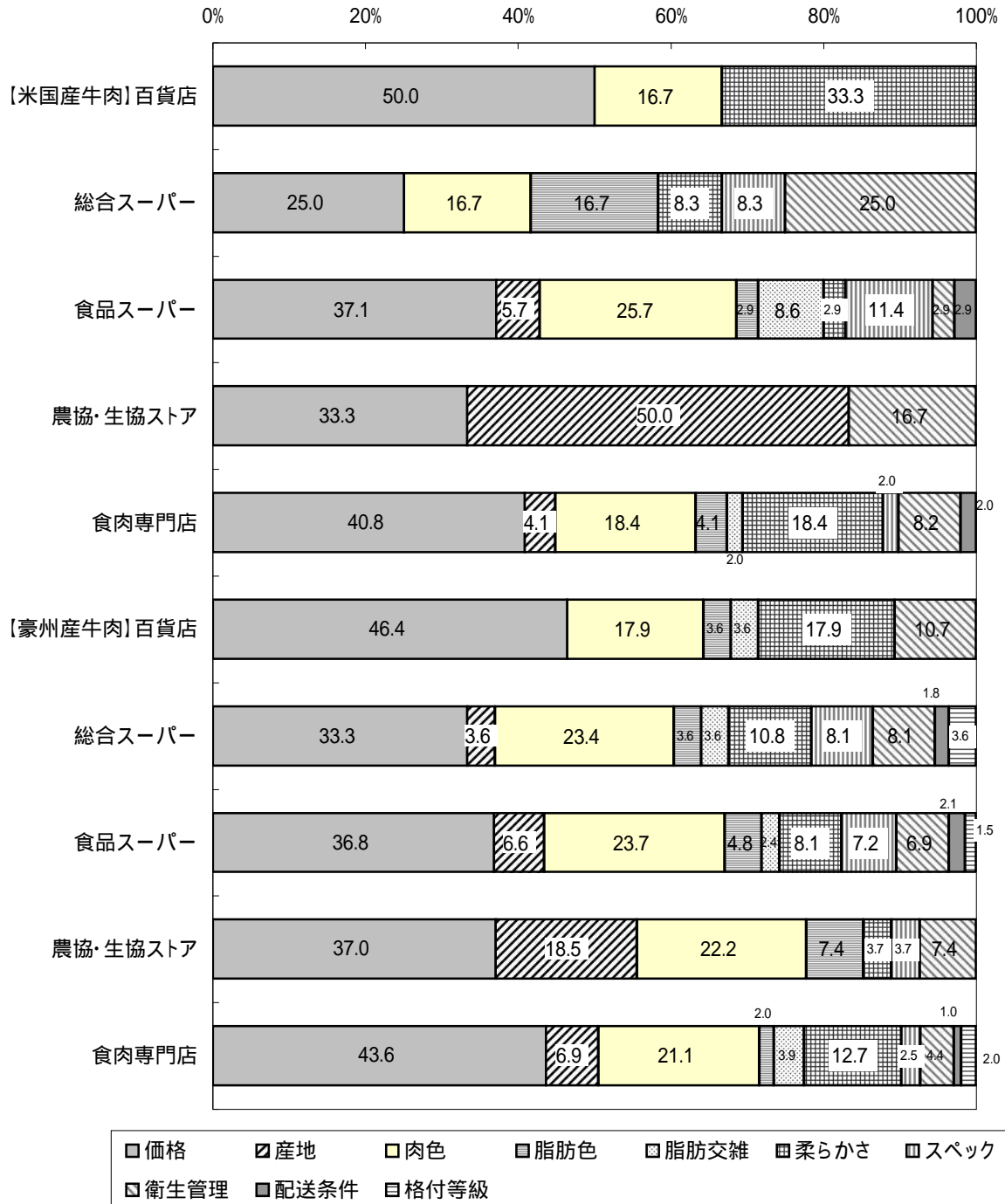


## 輸入牛肉

「輸入牛肉」は「価格」重視が強い。

「輸入牛肉」は各業態で「価格」重視志向が強い。「豪州産牛肉」ではこれとともに、「肉色」が重視されている。

図3-25 肉種別業態別食肉仕入の重視項目(輸入牛肉)



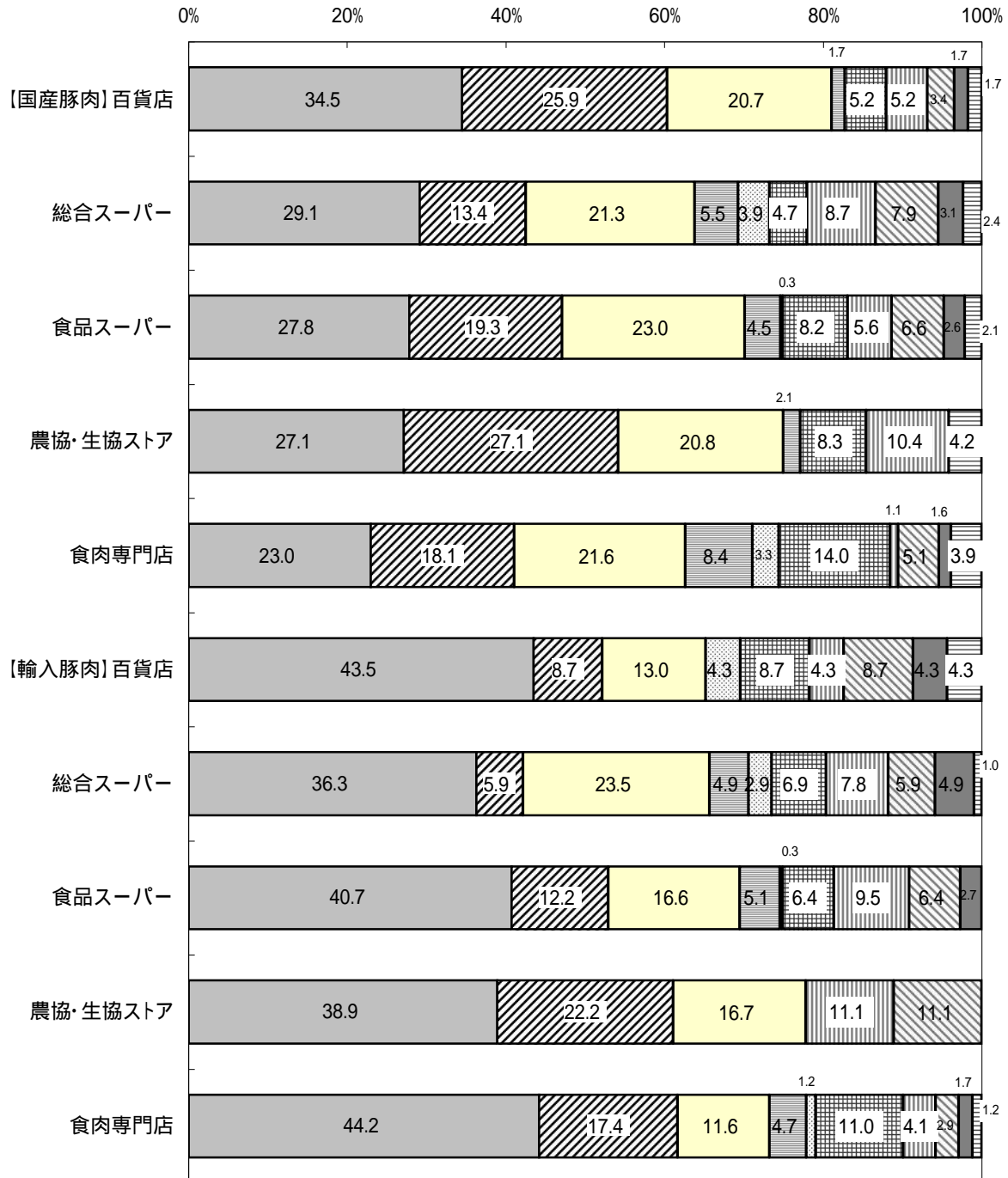
## 豚肉

「国産豚肉」は「価格」「産地」「肉色」重視。「輸入豚肉」は「価格」重視。

「国産豚肉」は、「百貨店」では「価格」「産地」「肉色」が重視されている。「農協・生協ストア」も同様な傾向である。これに対し、「食品スーパー」や「食肉専門店」は「価格」と「肉色」を重視している。

「輸入豚肉」はどこも「価格」重視であるが、「百貨店」と「食肉専門店」でこの傾向が強い。

図3-26 肉種別業態別食肉仕入の重視項目(豚肉)



価格
  産地
  肉色
  脂肪色
  脂肪交雑
  柔らかさ
  スペック
  衛生管理
  配送条件
  格付等級